

表1 SPF牛群の検査及び処置

病原体	供試抗原 <sup>1)</sup>	検査時期及び検査頭数		検査方法 <sup>2)</sup>	処置
		時期	頭数		
アイノウイルス	JaNAr28	3か月毎	群5頭又は10%のいずれ か多い頭数	SN	抗体陽性群・同居群 <sup>3)</sup> 全殺
カスピウイルス	K-47	"	"	SN	"
牛アデノウイルス	袋井	"	"	HI	"
日本脳炎ウイルス	中山	"	"	HI	"
牛エンテロウイルス		"	"	SN	"
牛ライノウイス		"	"	SN	"
牛レオウイルス		"	"	HI	"
イバラキウイルス	No.2	"	"	HI	"
アカバネウイルス	JaGAr39 OBE-1	"	"	HI ELISA	"
オーエスキーボウイルス		"	"	臨床症状	陽性群・同居群 全殺
ブルータンギングウイルス		"	"	ゲル沈	抗体陽性群・同居群 全殺
牛コロナウイルス	掛川	"	"	HI	"
牛流行熱ウイルス	YHL	"	"	SN	"
牛伝染性鼻気管炎ウイルス	No.758	"	"	SN	"
牛白血病ウイルス	FLK-HK-11 FLK-SP	"	"	ゲル沈 受身HI	"
牛乳頭腫ウイルス		"	"	臨床症状	"
牛パルボウイルス	BF-15	"	"	HI	"
牛丘疹性口炎ウイルス-偽牛痘ウイルス		"	"	ゲル沈	"
牛RSウイルス	NMK7	"	"	SN	"
口タウイルス	Lincoln	"	"	SN	"
牛ウイルス性下痢粘膜病ウイルス	Nose	"	"	SN	"
悪性カタル熱ウイルス	ウシカモシカ型	"	"	IFA	"
パラインフルエンザ3ウイルス	BN-1	"	"	HI	"
コクシエラ パーネッティ		"	"	IFA	"
マイコプラズマ		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
牛放線菌		"	"	菌分離	"
マンヘミア ヘモリティカ		"	"	菌分離	"
パスツレラ ムルトシダ		"	"	菌分離	"
ヒストフィルス ゾムニ		"	"	菌分離	"
炭疽菌		"	"	臨床症状	"
ブルセラ	メリテンシス	"	"	AGG CF	抗体陽性群・同居群 全殺
サルモネラ		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
ウシ結核菌、ヒト結核菌	青山B及び10	"	"	ツペルクリン反応	抗体陽性群・同居群 全殺
ヨーネ菌	マイコバクテリウ	"	"	ヨーニン反応 ELISA	"

レプトスピラインターローガンス	ム アピウム ヘブドマジス	"	"	AGG	"
ピロプラズマ		"	"	血液検査	陽性群・同居群 全殺
アナプラズマ	マージナーレ	"	"	CF	抗体陽性群・同居群 全殺
流行性出血病ウイルス <sup>4)</sup>					
牛痘ウイルス、ワクシニアウイルス <sup>4)</sup>					
口蹄疫ウイルス <sup>4)</sup>					
ランピースキン病ウイルス <sup>4)</sup>					
狂犬病ウイルス <sup>4)</sup>					
リフトバレー熱ウイルス <sup>4)</sup>					
牛痘ウイルス <sup>4)</sup>					
水胞性口炎ウイルス <sup>4)</sup>					

注 牛の健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡した牛については病理組織学的検査等を行う。

- 1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。
- 2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。  
 H I : 赤血球凝集抑制反応 E L I S A : 免疫酵素抗体法 S N : 血清中和試験 I F A : 間接蛍光抗体法  
 A G G : 凝集反応 ゲル沈 : 寒天ゲル内沈降反応 C F : 補体結合反応
- 3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。
- 4) 国内で発生がない(又は重要度が低い)ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。